＜＜東北魂＞＞を鼓舞する
電子新聞

発行所　株式会社遊無有
〒 207-0005
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up , TOHOKU !

無料
第 41 号
毎月発行
創刊 2015 年（平成 27 年）10 月 16 日 金曜日
2015 年（平成 27 年）10 月 16 日 金曜日

やれば必ず出来る、東北復興！
やはり･･･強力なリーダー次第
ワールドカップラグビー・ジャパン
に学ぶ不可能を可能にする方法

世紀の番狂わせ実現直後の
ジャパン・ヘッドコーチ　エディー・ジョーンズ

世界を驚かせた ラグビー日本代表

日本中のラグビーファンはもちろん、世界のラグビーファンも、試合開始前のランクで十三位のジャパンが、ランク三位で二度の優勝経験のある強豪、しかも世界最強といわれる大型フォワードを擁する南アフリカを破るなど、だれも予想しなかった。

しかも、ロスタイムに、同点のチャンスを封印してのかなり強引な攻撃でむしり取ったトライの五点での大逆転だった。

巷間、このあまりにもすごい世紀の大番狂わせは、特にラグビー発祥の地であるイギリスでは大騒ぎで、国内でもラグビー以外のものにたとえるのが流行したが、まさに驚天動地の出来事であった。

ラグビーには まぐれはない

ラグビーにはフロック（まぐれ）はないと言われている。

八十分の試合中、何度も身体のぶつかり合いがあるラグビーでは、フロックが続けて発生はしないというのがその主な理由で、総合的な体力差、力量差が結果に現れるのがラグビーという競技である。

こうした点で、日本のランク十三位と南アフリカの三位との差は、とてつもなく大きく、試合でひっくり返ることなど到底無理と考えられていたのだ。

それを見事にひっくり返したということは、日本チームが本番で勝てるまでの実力を備えていたのを大舞台で証明したということでもあった。

これまでの戦績と目標

ちなみに、ワールドカップにおける日本チームのこれまでの成績は、一勝二分二十一敗という惨憺たるものであった。

勝ったのはジンバブエのみ、引き分けたのはカナダ。それ以外のラグビー強国にはことごとく敗れ、ラグビー史に残る大敗を喫したこともあった。

その日本を、予選ラウンドを、少なくとも二勝、あるいは三勝させて、参加二十チームから八チームに絞り込まれる決勝トーナメントに進出させようということである。

今大会ではプールBという日本が入るグループでの最強は南アフリカ、次いでスコットランド、さらにサモア、アメリカと続く。

いずれも、いままでならば、とても勝てそうもない相手ばかりである。

東北復興にたとえて 言えば・・・

不謹慎のお叱りを受けるのを覚悟で、南アフリカに勝利したことを東北の復興という脈絡の中で例えてみたらどうなるか。

筆者の独断と偏見によれば、以下のような内容になるだろうか。

①大震災前には中長期的に低迷していた東北経済がV字回復した
②人材流出が止まらなかった東北に、世界各地から若い人材がどんどん流入している
③福島第一原発放射能問題が震災発生後十年で解決する目途がついた
④新次元の東北観光事業が世界に向けて発進し大きな成果を獲得した
⑤東北に多くの世界最先端産業が誕生し、結果として世界的な先端産業集積基地となった
⑥大震災発生から十年で完全復興を遂げ、世界の大災害復興モデルとなった

これでも控えめとお叱りをうけるかもしれないが、最低でもこれくらいのサプライズであろう。

エディー・ジョーンズというヘッドコーチ

ラグビー日本代表の実力が短期間にこれほど上昇したのはなぜか。

それは紛れもなく、エディー・ジョーンズという、まさに鬼のような強烈なヘッドコーチのおかげである。選手たちももちろん頑張ったが、その頑張りのレベルの大幅引き上げを選手たちに確信させ、実際に実現したのがこのヘッドコーチである。

その練習メニューは、質も量もともに世界一と選手たちが異口同音に言っている。

苦しい練習のレベルが世界一ならば、本番でもその練習の成果を出せるはず。結果、世界の八強に必ずなれるというのが骨太の基本方針であった。

選手たちをそこまで駆り立てる熱意は、言葉だけではない。尋常ならざるワーカホリック（仕事中毒）ぶりで選手も圧倒された。

練習に打ち込んだだけではなく、ラグビー協会も説得したし、選手たちが所属するたくさんの企業に、八強になるための長く猛烈な合宿への参加協力をもとりつけるために説得して歩いた。

加えて、選手たちには出来ない言い訳を許さないことにした。以前のジャパンでは言い訳が多かったそうだが一切許さない。

いわく、日本人は体格が劣るので勝つのはむずかしい。ラグビーのプロがいないから勝てない。日本人は農耕民族の精神を持っているから、狩猟民族のラグビー強国には勝てない。

こうした言い訳をさせず、弱点をことごとく強みに変えていったところにエディー・ジョーンズのすごさがある。

東北復興が出来ないという言い訳

話を東北復興に転じ、大震災後の復興が進まない言い訳は何か。ちょっと考えただけで、数限りない言い訳が考えられる。

①もともと復興予算が少なく、自由に使えず、しかも最近削られた
②官僚主導の硬直化した復興プランは実情に合わず、調整しながらの復興では時間がかかる
③結局は震災前状態を復活するだけのプランで、しかも長期間を要し、これではとても未来に明るい希望が持てない
④四年半以上経ち、大震災は忘れられ、被災地は孤立化している
⑤風評被害だらけで、復興にダメージがある
⑥福島第一原発放射能対策は進まず、かつ隠ぺいされている
⑦復興全体を統括する信頼できるリーダー不在
⑧主な被災三県の足並みがなかなか揃わないので進まない

長期プロジェクトに耐えうるリーダー待望論

トップクラスのラグビーチームの実力を蓄えるには三カ月や半年では足りない。数年のプロジェクトである。

現にエディー・ジョーンズも六―七年のプロジェクトと考えていたようだ。

ラグビー強国と言われている、あのイングランドチームも一時チーム力が大きく落ち込み、オーストラリアに0-76という惨憺たるスコアで敗れている。それを立て直すのに六年もの歳月を要した。

日本はもっと低いところからのスタートであり、六―七年は短いだろう。

そうしたプロジェクトの綿密な計画、選手はじめ関係者の説得、熱意と冷静な判断、そしてすべての結果責任を負うのである。

こうしたリーダーが、東北復興の現場にいたらと思うのは筆者だけではあるまい。むしろ、被災地の人々こそ、そうしたリーダーを待望しているだろう。

強烈リーダー出でよ、復興サプライズを実現せよ！

大震災発生から四年七か月を過ぎた。

被災地では、思ったように進展しない復興状況を日々見せつけられ、メディアに登場する機会もめっきり減り、関係者以外からは忘れられていると感じてもいるだろう。

しかし、ものは考えようだ。まだ復興事業が終わった訳ではない。今後はどんどん規模が縮小していくと決まったわけでもない。

ここであきらめたら、もっと悲惨な状況を呼び込むことにもなりかねない。

それにしても、と思うのである。なんといっても、リーダーは大事である、と。

現状の悲観的な状況を踏まえ、悲惨な状況から再び立ち上がり、あらゆる困難を排し、被災地と被災者に夢を持たせるリーダーの待望、復興サプライズ待望である。

南ア戦勝利に沸く選手たち

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

福島ー富岡町・楢葉町レポート ③

富岡町の再建は今後どう展開するのか？
膨大な量の放射能汚染土の行き場は？
除染作業で本当に線量は下がるのか？

【現地取材の連載レポート　その③】

山のように、野球場より広く積まれた除染土壌

まずは、富岡町の除染土の膨大な量を見よ

福島第一原発から流出した放射能に汚染された土壌は、福島県各地でおおむね三～五センチメートルほど剥がされ、集められているようだ。

富岡町では、この汚染土を詰め込んだ大きな黒い袋が、剥がされた場所や仮置き場などに、山のように積み上げられている。そうした場所がたくさんあった。

富岡町すべてを見て回ったわけではないので、正確には分からないが、高さが十数メートルある人口の山が大量に作られるような量だと推察できる。

百聞は一見に如かず、旧ＪＲ富岡町近くにある、汚染土置き場を見て見れば、それが誇張ではないことが分かるだろう。

この汚染土が山と積まれた映像は国内メディアは流さないようだ。海外メディアだけが、そのほぼ全容を写真画像とともに世界に発信している。

富岡町は現在、除染作業の真っ最中で、汚染土を積載したトラックがひっきりなしに、ゴーストタウンと化した街を疾駆していた。

これらの汚染土は、そのまま保管されるのか、あるいは中間貯蔵所に保管されることになっているようだ。

元 JR 富岡駅近くの作業現場

除染作業中につき立ち入り禁止

除染土壌を運搬するトラック

河川も除染中

富岡町浄林寺隣接地も除染中

除染事業による現地雇用創出

現地に行かなければ分からない話はたくさんあるが、そのなかでもコメントに窮する話題がある。

それは、こうした除染作業が、現地の新たな雇用を創出しているという皮肉な現象である。

働き口を探していた住民が、結構な報酬を伴う除染の仕事に就き、収入状況が一変したという。

地元自治体の収入につながる産業がない中で、原発誘致に舵を切らざるを得なかった数十年前の苦渋の判断、それが今般の被害に結び付いたことを思い起こさせるような現実に直面し、複雑な思いがした。

生きていくのに必要なのだと言われれば、確かにそうである。

かつてもそうだった。そしてこの大被害に直結したのだ。

復興にあたっては、地元経済構造の変革が不可避だと痛感した次第である。

復興の道のり遠し

笑い仏さんの開眼供養を終えた後に、浄林寺の早川住職に近隣をご案内していただいた。主に、近隣の寺院を見て回った。

線量が高すぎて無人となった寺院の境内では、除染作業が進行していた。

次の寺院では、無人の建物内を見たら、イノシシと鳩の糞が堆積していた。

イノシシは同じ場所に糞をするのだという。

そこを再び使える状態にするにはとんでもない苦労があるだろうし、寺院だけでなく、放置された墓もいったいどうなるのだろうと考え込んでしまった。

福島第一原発近隣の復興は、まだまだ道のりが遠いと感じた。

― 了 ―

高線量のため無人になった寺

動物の糞だらけになった寺の中

富岡町合同庁舎前も除染中

一般民家の除染作業

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

三陸酒海鮮会

渋谷は 10/3、日本橋は 10/8

秋となり、日本酒シーズンを迎え、両開催ともに大いに盛り上がる

毎年、暑い夏の期間にはなかなか日本酒をいただこうという方も少ないので、約二カ月のお休みをいただいておりました。

十月に入り、大分涼しくなり、またしばらく東北の地酒から遠ざかっていると、あのおいしい地酒が懐かしくて、大勢のみなさんが駆けつけてくれました。

そんなことで、十月三日には渋谷で、二十七名参加、十月八日には日本橋で、〇名参加で、立て続けに開催しました。

参加者も常連や準常連に加え、新たな参加者も増え、また渋谷ではミニライブも行い、大盛り上がりでした。

人数が多くなると、会の飲み放題の趣旨からして、地酒の種類と本数も増えることになり、渋谷開催では十升もの酒瓶が並びました。（写真参照）

あまりの量に圧倒されたのか、さすがに全部の地酒を空にすることは出来ませんでしたが、かなりの量をいただきました。

地酒のなかでは、特に福島の「写楽」が大人気で、あっという間にビンが空になりました。

最近、福島産の地酒が、国内外のコンテストで優勝しています。そうした福島を少しでも応援したいという気持ちと、とにかくおいしい地酒は真っ先にいただこうというノンベイ精神で、次々に一升瓶が空になっていきました。

開会に先立っては、両会場ともに、筆者の福島取材の模様をお話ししました。

内容は、当新聞の短期連載「福島―富岡町・楢葉町レポート」の内容をかいつまんでのお話でした。

三陸の酒を飲み、三陸の海産物をいただき、間接的に被災地・三陸を支援しようという会ではありますが、単なる飲み会ではないということを承知しつつ、たらふく飲み、食べる会です。

参加者からも、足かけ三年も続いているこうした集まりは最近見かけなくなったという話もありました。

今後も、参加者の負担が少ない現在の形で、長く続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

三陸の海鮮・渋谷

『日本酒ラインアップ・渋谷・・・10 種の地酒』

『日本酒ラインアップ･日本橋･･･青森、岩手、宮城の地酒』

バレンシア地方の料理で 本来はフライパンを意味する。今回は、豊富な魚貝類と米をフライパンで炒め煮をしたスペイン料理の紹介。

― コツ・ポイント ―

うまく炊き上げる一番のポイントは、米をスープの膜でおおいながら、ぎりぎりまで煮つめること。水分が多すぎるとベチャベチャし、少なすぎると芯が残ります。最後にパチパチ音がするまで強火をあてて仕上げると、フライパンの底に溜まった“だし”がオコゲになって香ばしくなります。

第14回 水産業再興のための料理レシピ紹介

【パエリア】

「パエリア」（完成）

郷土料理愛好家
松本由美子氏

【パエリア】　材料2、3人分（直径28cmのフライパン）調理時間: 約25分

オリーブオイル30g　にんにく4g　▸みじん切りまたはすりおろす

■ 具材

鶏もも肉150g▸ひと口大に切る / あさり 100g▸殻をこすり合わせて洗う / いか 60g▸掃除して3cm大に切る/ むき海老60g▸塩で洗って3cmに切る/ 白身魚 60g▸皮を除いて3cm大に切る/ パプリカ(赤、緑など) 50g▸3cm大に切る/ パプリカ粉末 3g / 米(洗っていないもの) 150g▸洗わない / 白ワイン 20g

■ スープ

水 300ml / かつおだしの素 3g/チキンコンソメ6g / 干し海老(桜海老など) 15g / サフラン(あれば)少々

■作り方

Step1. 火加減はお持ちのフライパンにあわせてください。強火調理を推奨していないフライパンもございます。フライパンにオリーブオイル、にんにくを入れて弱火にかける。

Step2. 香りがでてきたら強火にして鶏を皮目から香ばしく炒め、他の具材(あさり、いか、むき海老、白身魚、パプリカ)も投入して炒める。

Step3. 具材が白っぽくなるまで火が通ったら、パプリカ粉末を加えて香りを立たせる。つづいて、米を入れて全体を混ぜ、白ワインを加える。

Step4. アルコールが飛んだら、スープ(水にだしの素、チキンコンソメを溶かしたもの)、干し海老、サフランを加え、強火のまま沸騰させる。

Step5. 強火のまま、米が水面からうっすら透けて見えるところまで煮詰めたら、ふたをして中火にする。

Step6. 15分経過したらふたを外し、強火にして30秒。パプリカ、トマトは、火を止める10分前位にいれます。

ステップ　②

ステップ　①

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

今、平泉研究が面白い！

推理小説を読むような面白さ

最近、平泉について書かれた新著を読むのが楽しい。あたかも、推理小説を読むがごとく、それまで知られていなかった謎が次々と明らかになるような、知的好奇心を満たす内容がてんこ盛りである。いったいどうしてここへ来てそのようなことになったのだろうか。

その大きな要因は、発掘調査の進展である。そのお陰で、従来の「奥州藤原氏は実質的には奥六郡と仙北三郡を支配していた一地方豪族に過ぎない」というような、奥州藤原氏を過小評価するような論説が覆された。そして、奥州藤原氏が現代の我々が想像する以上に当時のグローバルスタンダードを踏まえていて、平泉の文化も、京の文化を模倣することで成り立っていたようなものではなく、極めて独自性を備えた文化だったことが明らかになってきたのである。

特に、入間田宣夫「藤原清衡～平泉に浄土を創った男の世界戦略」（集英社、2014年9月）と斉藤利男「平泉～北方王国の夢」（講談社選書メチエ、2014年12月）は、近年の発掘調査に基づく最新の知見を余すところなく披瀝しており、文字通り目から鱗の内容も数多い。前者では、奥州藤原氏初代清衡に焦点を当て、清衡は閤国王・王審知の仏教立国事業を知り、そうした当時の東アジアの仏教のグローバルスタンダードに則って国づくりを進めていたとしている。一方後者では、奥州藤原氏の在りようは、過去に存在した渤海王国に比すべきものとして、朝廷の支配下にあった一地方政権という枠を超え、北方世界に広く影響力を及ぼした政権との見方を示している。

京都とは異なる平泉の神仏

平泉の仏教文化は、京都のものを取り入れたものというのがこれまでの見方であった。もちろん、大きな影響を受けたことに間違いはないが、平泉の仏教文化は京の都を飛び越えて、さらに当時の東アジアのグローバルスタンダードに準拠していたことも明らかになってきた。

当時の京の都の御願寺（天皇・上皇・皇后などの発願によって建てられた寺院）は、宇宙の中心仏とされた毘盧遮那如来（大日如来）を本尊とし、それに五大明王を祀るという真言密教色の強いものであった。これに対して同じ御願寺である中尊寺の鎮護国家大伽藍一区や毛越寺では、顕教寺院の特徴の方が強く現れ、釈迦如来や多宝如来、阿弥陀如来が本尊で、大日如来の使者である五大明王も一切導入されなかった。五大明王の下で行われる五壇護摩法は夷族や怨霊の調伏を目的に行われており、当の夷族の長を自任していた奥州藤原氏にとっては排除すべきものだったのである。と同時に、これは京の仏教文化に対する独自性の追求でもあった。

独自性の追求は、仏教だけでなく、神社においても見られる。平泉には天皇家の祭神である伊勢、摂関家藤原氏の祭神である春日、鎮護国家の軍神で源氏の祭神でもある八幡、蝦夷征伐の神として祭られてきた鹿島・香取も一切勧請されなかった。それに対して勧請されたのは仏教に関わりの深い日吉、白山、金峯、熊野、王子など洛外の諸社、洛中では上下貴賤の分け隔てなく信仰された諸社に限られたのである。

このように平泉では、平安京とは異なる論理で勧請される神が選ばれたことが分かる。とりわけ重大なのは、藤原氏の祭神である春日も勧請されなかったことである。奥州藤原氏が、藤原氏の血を引き、藤原を名乗りながらも、京の藤原氏とは一線を画する意識でいたことが窺えるわけである。そこには、中央の論理を一貫して排除する姿勢が感じられる。

東北各地で見つかる奥州藤原氏の出先機関

平泉の柳之御所遺跡で多数出土することから「平泉セット」と名付けられた、平泉型てづくねかわらけや白磁四耳壺が出土する遺跡が、特に平泉以北の東北の各地で見つかっている。平泉型てづくねかわらけは宴会用の土器、白磁四耳壺は輸入陶磁器である。これらが出土する遺跡は、奥州藤原氏かそれに連なる勢力の居館だった可能性が高いのである。

その代表的なものとしては、青森県内の蓬田大館遺跡、内真部（4）遺跡、新田（1）遺跡、浪岡城跡内館遺跡、中崎館遺跡、秋田県の矢立廃寺、観音寺廃寺、岩手県の比爪館跡、田鎖車堂前遺跡、川原遺跡、宮城県内の花山寺跡、多賀城跡、大古町遺跡、福島県内の白水阿弥陀堂境域などがある。

これによって、奥州藤原氏は東北全域を支配下に置いていたのではなく実際には奥六郡と仙北三郡を押さえていたに過ぎないというような指摘は、明確な根拠を以て否定されるわけである。

関係者を驚かせた北海道の出先機関

関係者にとって衝撃的な発見が、この中の新田（1）遺跡、そして北海道の厚真町の宇隆1遺跡であった。新田遺跡は、港湾機能を伴った集落遺跡で、平泉政権の外港的位置づけの出先機関があったと見られている。さらに、宇隆1遺跡では、北海道で唯一奥州藤原氏時代の尾張常滑窯の壺が出土した。この壺は、平泉との結びつきを示しているのみならず、その形状と出土場所の特徴から、奥州藤原氏が各地に築いた経塚の外容器であったと見られ、平泉からこの地域に派遣された者が造営したと考えられているのである。

遺跡のある場所はまさに道央の入り口である。それまで、本州から渡った人々がこの地に居を構えるようになったのは室町時代と見られていたが、宇隆1遺跡の出土物は、実は既に平泉の出先機能を持つ拠点がこの地にあったことを物語っているのである。

これによって、奥州藤原氏の影響力の及ぶ範囲は、陸奥出羽両国にとどまらず、道南を越え、道央の入り口にまで達していたことが明確になったわけである。中尊寺供養願文で清衡は、自らを「東夷の遠酋」（東の果ての蝦夷集団を束ねる遠い昔からの酋長の家柄に属する者）、「俘囚の上頭」（朝廷に服属する蝦夷集団の頭領）として、「出羽・陸奥の土俗」を従え、さらに「粛慎・挹婁の海蛮」をも従えていると書いている。従来は、その表現を大仰に過ぎると見る見方がほとんどだったが、実際に海を越えて、奥州藤原氏の影響が及んでいる地域があることが明らかになったわけで、供養願文にあるこのくだりはそれ相応に根拠があることだったわけである。

「大平泉」の都市機能

平泉自身も世界遺産に登録された中尊寺や毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山のある区域のみにとどまるものではないことが明らかになってきた。奥州藤原氏の前の安倍氏の拠点だった衣川地区からも「平泉セット」が平泉に引けを取らないくらい大量に発掘され、奥州藤原氏時代にもこの地区が「副都心」として機能していたこと、さらに白鳥舘、本町、祇園といった地にも都市集落が形成され、これらを含めて「大平泉」とも言うべき様相を呈していたことが分かってきたのである。

このうち衣川は、水陸両方の交通の要衝で、水上交通、陸上交通を通じてもたらされた物資が集まって賑わっていたところだったという。白鳥舘には川湊があり、水上から物資が運び込まれた地であると共に、かわらけや鉄製品、銅製品、石製品、水晶細工などを生産していたと見られる工房跡が見つかり、一大手工業生産地であったことが明らかになった。本格的な発掘調査はこれからだが、本町や祇園にも川湊があり、やはり白鳥舘同様の都市機能があったと見られている。当時京の都に次ぐ人口10万人を擁する都市であった平泉の都市機能について、だいぶその詳細が分かってきたのである。

周知の事実に対する洞察

最新の発掘調査に基づく研究成果だけでなく、周知の事実に関するなるほどと思わせられる深い洞察もあった。例えば、「千僧供養」。僧侶千人を集めて読経させるという一大イベントだが、これを清衡は延暦寺、園城寺、東大寺、興福寺といった日本の大寺で行っただけでなく、中国の天台山国青寺でも行ったと伝えられている。当時、千僧供養というのは、天皇や上皇、摂政や関白が主催するものだったとのことで、それを一介の地方豪族である清衡が行えたことのすごさ、しかも日本だけでなく中国でも行えたことのすごさに思い至った。中国で行ったことについては、日本に藤原清衡ありという印象を中国国内に植え付けるだけの効果があったに違いない。

また、「御願寺」であることもそうである。中尊寺は白河上皇の御願寺で、つまり白河上皇の発願による寺ということになっている。当時の京の都では、上皇や天皇の発願による御願寺が多く建立されたが、地方豪族の建立した寺院が御願寺となる例などは空前絶後ということである。しかも、御願寺であるからには、供養願文も白河上皇が主語になる書き方になるべきであるところ、有名な中尊寺の供養願文は、清衡の思いがふんだんに盛り込まれた文章になっているのがそもそも異例であるということである。

これからがさらに楽しみな平泉研究

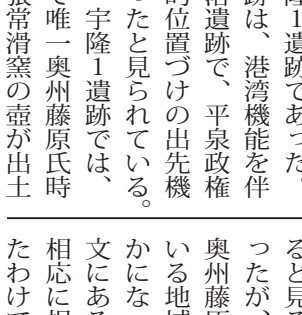
入間田宣夫氏は言う。「あれや、これやで、平安京のモデルをストレートに受け入れるのにはあらず。どちらかといえば、東アジアのグローバル・スタンダードに準拠するなかで、それにあわせて東北日本の風土に即応するなかで、さらには武家好みのスタイルを模索するなかで、平安京のモデルを選択的に採用・アレンジすることによって、平泉の文化はかたちづくられることになった」と。

斉藤利男氏も言う。「平泉と奥州藤原氏の歴史・文化に対しては、これまでも大きな注目がなされてきた。だが、そこには、古代蝦夷研究と平泉研究の発展に大きな足跡を残した高橋富雄氏を別として、『日本列島北部辺境の一地方史』という視点が強く働いていたように思う。しかし本書で述べたように、平泉と奥州藤原氏は、南の琉球王国と同様、決して『日本国の一地方』という枠組みには収まらないものであった」と。

これからの平泉研究がさらにどのように展開していくか、実に楽しみである。

執筆者紹介

大友浩平
（おおともこうへい）
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagma5/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

連載
むかしばなし

第二十九話

悪路王の森の扉

「アテルイの後裔が綾糟の転生だと・・・」

盤三郎憲家が白髪頭を掻きむしる。

「アテルイという男には・・大きな借りがある。血が絶える危機の際には、我が身を挺して守ると、約束したのだ。」

青年の顔を借りた大天狗の言葉に、年輪が滲む。

「ぬしなら知っておるだろう、津軽の時跨ぎよ。」

何もかもお見通しか・・鋭く見据えられた芭蕉は答える。

「朝廷軍を長年苦戦せしめた、蝦夷の長にして勇者・・だが、元は誰より臆病にして虚弱なる集落の小役人。その底知れぬ潜在力に目をつけ、地域の英雄にまで押し上げたのが、達谷の悪路王と呼ばれた男でした。」

「その悪路王、ぬしがこの大地の裏側から連れて来た者であったな。」

「そこまでお察しとは。」

かつて、津軽で特別に合成された石によって、古代スコットランド北部へ跳躍した若き日の芭蕉・蝦夷名エコヌムケは、滅亡に瀕した現地巨石文明に生きる片腕の石工ファードルハ・ドムナルに出会う。再び遠方への跳躍を試みる芭蕉に同行を志願したドムナルは、共に世界の裏側、蝦夷の国へやってくる。そこはまさに大和朝廷が奥羽へ侵略の手を伸ばす、アテルイ登場前夜の時代だった。降りた地は巨大な岩窟の入口・・まだ建設されていない都市平泉の原野に隣接する、他ならぬ達谷窟だったのだ。

「ドムナルはその窟が津軽まで一瞬にして人を運ぶ道の始まりである事を発見しましたが、津軽の出口・・つまり拙僧の故地である鹿角への道が接続できない。原因を知る為、拙僧が単身鹿角へ向かうと、かの地はとうの昔に、十和田の火山灰で地下に消滅していた事を知ったのです。」

失意の芭蕉が衣川まで戻ると、蝦夷と朝廷の戦争が激化し、ドムナルは窟を拠点に蝦夷を支援していた。

「あの異邦人に我が魔力を貸し与えて援助し、即ち悪路王に仕立て上げたのが、何を隠そう　この大天狗綾糟であったのだ。」

芭蕉はもうあまり驚いた様子を見せなかった。

「ご自分の分身として、ドムナルを犠牲にされたのですか。」

「我は、大昔に強き呪いを受けて自らは朝廷相手に戦えぬゆえ・・必要な人材だったのだ。」

大和の地・三輪山で誓わせられた朝廷への忠誠・・。

「朝廷に反旗を翻した多賀城の役人・宇麻呂は、自分はもと蝦夷にとっての裏切り者ゆえ、若い世代から指導者が新たに立ってほしい、と言った」

綾糟は悪路王をせきたて、奥州中に素質ある若者を探させた・・そして胆沢の地に、戦嫌いで文弱だが独自の信念と郷土愛を持った青年を見出した。それがアテルイだったのだ。

「悪路王はアテルイを様々な面から支え、助け、また駆り立てた。まさに一心同体で戦ったのだ。やがてアテルイは助けなど要せぬ真の英雄へと成長した・・だが、朝廷軍に坂上田村麻呂が現れ、悪路王が討たれる日がやってきた。」

しばしの沈黙が、大天狗の館を支配した。その時、襖の向こうから配下のものらしき声が聞こえた。

「御館様・・・奥方様が目覚められました。」

「そうか。今朝は・・誰と称しておるか。」

「自分はチャンルーラ、であると申しております。初めて現れる者ですな。」

芭蕉と憲家はハッとして目を見合わせた。そう、ここにはヤエトの一族の片割れである、綾糟の妻がいるのだ。

一族裏切りの罪によって、彼女は「女王」によって呪いをかけられ、人格が来る日も来る日も三十人の姉妹の誰かに入れ替わり、決して夫に再び会う事ができないのだという。待てよ、チャンルーラといえば、確か・・

その時、大天狗が顔を上げた。

「そうか・・チャンルーラか。遂にその時が来たな・・では、会うとしよう。」

＊

「名取高舘を落とすぞ！」

北から吹きすさぶ砂嵐を受けながら、頼朝は進路を西へ変えた。

「要塞の将は泰衡か。」

「本吉冠者高衡なる者が、この先は魔界ゆえ郷国へ引き返すべしとの声明を・・」

馬上の梶原景時が言う。

「その名、聞き覚えが・・確か、予州（義経）殿の御首を鎌倉まで届けた者。泰衡の弟でしょう。」

報告は続けられる。

「その直後、第一陣に五千騎投入したところ、全て山中に忽然と消えたのです。」

「いかなる奇策か・・」

中原親能が進言する。

「高舘は、秀衡が崇敬せし熊野の分霊場とか。しかし何か他の仕掛けが働いている虞も・・・」

熊野か・・蝦夷の土地とはいえ、神域を焼き払うなど、極力避けたいところだ。

雷神である兄・悪源太義平は何をしているのだろう？

まさか、今朝の笠島道祖の女鬼神に絆されでもしたのではあるまいな・・・

「一万を投入せよ。火は使うな。高衡を捕らえるのだ！」

＊

砦の上にある高衡の身体が、興奮に震えていた。

高舘の森へ進撃を始めた鎌倉軍の兵たちが、樹々の間をくぐり抜ける途中、次々に霧のように消えていく。まるで樹が人間を捕らえて、一瞬のうちに飲み込んでいるかのようだ。

「これは・・何だ！一体」

側で少女・若も目を瞠りこの世ならぬ光景に息を飲んでいる。

「これが貴方の仰っていた、森の門・・・」

「いえ、門はこれほど広大ではありません。これではまるで磐井の悪路王が目覚めたかのよう・・だが、あり得ない」

味方の兵は皆、森の奥で身構えているが、誰一人負傷する者もない。

「悪路王・・・確かに、私の中でその名が繰り返されています。奥羽の森は、全て悪路王の掌握せし無数の道の扉である、と。」

高衡は呆気にとられた。

「貴女の中にいるのは・・阿古耶姫では、ないのか。」

「阿古耶さんは奥羽の人々を討つように宿命づけられた・・でも、悪路王は奥羽人ではない。だから、攻撃せずに済んだのです。」

自分より、もはやこの時間を旅してきた少女の方が事情をわかっている・・高衡は怖ろしくも愉快だった。

「貴女は、この森の力、どうご覧になるか。」

「この地の神が、総動員しているのかも・・途方もない霊気を感じます。けれど、これほどの大軍・・この砦も長くは持ちこたえないでしょう。」

＊

泉三郎忠衡は親友である未来からの旅人・石川善助を、船頭を呼んで広瀬川対岸まで送らせる事にした。

今しがたまで話していた、トヨという女の正体について・・善助の仮説に衝撃を覚えながらも、忠衡は永の別れを告げるべき友の行く末を案じた。

「これから、どうなさるご所存か。」

「最後の石の置き場所、榴岡公園ができる、あの丘へ行くよ。始めた者の責任を果たしに。」

小舟は漕ぎ出された。朝の上空に、まだ宮澤賢治と佐々木喜善の巨大な姿が揺れている。対岸に着いて、独り脚を引きずりながら歩き出すと、巨人たちに向かって少し声を張り、それでも独り言のように謳い放つ。

「賢治さん！喜善さん！僕はこの街にどんなに裏切られようとも、愛さずにはいられないのだ！」

＊

国衡の魂は、いま旧友・大河次郎兼任を烏兎森から半ば強制的に解放して、自らが新たにその山頂へ囚われとなっていた。

これが烏兎森か・・今や目も耳も、手足も腸もなく、真の暗闇にして静寂の極まる事、まさに幽閉という状態に他ならぬ感覚である。

今にも発狂せんばかりの虚無感・・何もない所に己が意識のみがある。まさに、生き地獄だ。

名取太郎はどうしたのだろう？俺の身体のまま首を刎ねられたが、あの怪物がおいそれと絶命するはずがない・・俺の首には、未だ奴の魂が封じられ、何事か思案などしているに違いないのだ。

かなり長いこと、魂はもがいていたが、やがて悟ったように己が内を平静に保ち、意識を四方に巡らせた。すると、ひとつの方角から一筋の光とも、音ともつかぬ霊的な波動が差し込んでくるのがわかった。

解放される前、兼任は言い残した。丑寅の方角、塩竈の社から結界が引かれたと。その直線状に落ちている石なら、全て自由にできる・・動かす事、温度を変える事、形を変える事・・。

石ころか・・道端の石をいくら動員したところで、何ができるというのか。しかし塩竈社に呪法の鉄燈籠を置いたのはあの義理の弟にして天狗小僧である忠衡なのだ。

更に丑寅からの結界線へ意識を集中すると、その先に不思議な物体の存在を感じた。巨石・・ではない。人間の背丈の三倍はある、巨大な鉄の塊だ。それはどうやら人間が砦のように組み上げたものだが、結界線上の無数の石と共鳴して鉄が過熱しているらしく、中に大量の水があって沸騰し、湯気を吹き上げている。その周りの草原には、数十人の人々がいて、混乱しているようだ。

一体、何者なのだ？彼らは。

＊

「まいね！鉄ば焼げてしまうごだ、水も蒸気さなってしまうはで、川から汲んでこいでば、これ！」

八六二〇型機関車の黒光りしていた鉄の肌は今や赤みを帯びて、その熱さを増していた。石炭を燃さずとも水はみるみる蒸発し、車体各所から激しく噴出している。

「汲んでこ・・てバケツ三つ四つで間に合うもんでねえべしゃ！」

機関士や車掌、そして祝魚ら男たちは奇怪な事態に混乱していた。

小田原遊廓を目指していた遊女が、シガレットを取り出して紫色の煙を吹いている。何だかんだ男たちが言い争っている間に朝が来て、一夜の稼ぎ話はすっ飛んでしまったようだ。

「ごらんよ、石が踊ってるよ・・ほら、沢山、沢山。」

祝魚は女の歌うような声に振り向いた。踊っている・・？いや、本当だ。機関車の前方をまっすぐ一直線に、大小様々な形の石っころどもが人間の背丈よりも高く飛び跳ね、くるくると回転し・・そして全て機関車と同様、赤みを帯び、熱を発している。

「軍隊だ・・頼朝の大軍が迫っている。こいつら、迎え撃とうとしているんだ！」

―次回予告―

広瀬川で討たれるのは兼任なのか、忠衡なのか、はたまた頼朝なのか（え？）！綾糟とチャンルーラの間には、いかなる修羅場が！？

奥羽越現像氏（おうえつげんぞう）紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出没し演奏する。フィドル（ヴァイオリン）担当。

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

シリーズ 遠野の自然
「遠野の寒露」
遠野 1000 景より

まことに月日の経つのは早いもので、秋分もあっという間に通り過ぎ、もう十月も半ばになってしまいました。今年もあと残すところ、二カ月あまりです。筆者も先月、還暦プラス二年目の誕生日を迎え、人生の第四コーナーに差しかかっておりますが、季節が移り変わるたびに、いやでも残りの年月を確認せざるを得ないこの頃です。

さて、この季節は二十四節季で「寒露」と呼ぶそうで、露が冷気によって凍りそうになる頃であり、雁などの冬鳥が渡ってきて、菊が咲き始め、こおろぎなどが鳴き始める頃を指すと言われております。

東京圏ではまだまだ露が凍ることはありませんが、このところ急に冷え込み、今年の夏の暑さが、遠い昔のようになつかしく思い出される季節となりました。

また夜には、耳を澄ませば、さまざまな虫の音も聞こえてきて、しみじみと秋だなと感じます。

＊

さて、遠野の秋は祭りの季節でもあります。

時間を少し遡りますが、先月の十九日、二十日と遠野では「遠野まつり」が開催されました。

初日は街中で、二日目は遠野郷八幡宮境内で行われました。

筆者は腰痛で四年連続の訪問がかないませんでしたが、その模様を写真でお伝えいたします。

また、十月四日には、遠野郷八幡宮において、「シシ踊り四団体奉納」も開催されました。

当新聞でも何度か紹介させていただきましたが、遠野の祭にはぜひお出かけいただきたいと思います。

百聞は一見に如かず、祭という概念がきっと変わると思います。

遠野郷八幡宮に奉納する「シシ踊り４団体奉納」も今年は現地で拝見することは出来ませんでしたが、昨年に同様の催しがあり、堪能いたしました。

地元でも、こうした「シシ踊り」の競演にはなかなかお目にかかれず、貴重な機会ですが、それ以上に「シシ踊り」の迫力を一度体験されることをお勧めしたいと思います。

＊

遠野の祭は、遠野の自然という圧倒的な背景があっての祭です。

街中でたくさんの人出があるなかでの踊りも良いですが、遠野の自然のなかで繰り広げられる伝統的な踊りはまた格別です。

＊

遠野の「寒露」も露が凍るまでには至りません。とはいえ、朝晩は大分気温が下がり、日中との寒暖差は激しいようです。そろそろ冬を迎える準備を開始する時期でもあります。

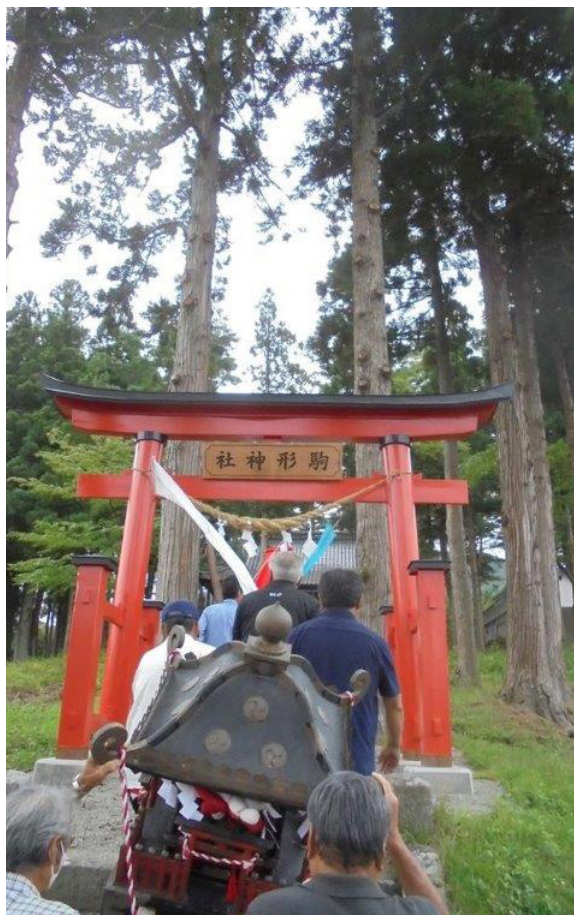
神輿

シシ踊り

鶏舞

お通り

流鏑馬　八幡宮 HP から



還御

南部ばやし

ソバ畑と SL 銀河

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

石巻に新しい復興の風を

若者が中心となって立ち上げたNPO法人が新しい手法で風力発電所開発に挑戦する！
-NPO法人ＳＴＥＬＡのプロジェクトのレポート1-

2014 年度末時点でのプロジェクトメンバー

今から7年前、当時大学院にて風力発電の研究をする傍ら、世界一周航空券を片手に社会問題の現場を歩く一人旅に出たことがある。

「環境問題」「戦争」「貧困」と改めて言わずとも世界はたくさんの問題を抱えていた。

地雷で手足が無くなった人、ゴミの山で働く子供に真っ白になったサンゴ礁。

海外の問題を叫んだところで、現場に行ったことがない人間になんの説得力があるだろうかと思った。

しかし、いくら深刻な問題だろうと、将来の世代に負の遺産を残すものであろうと、それは海を挟んだものであって、対岸の火事のように感じてしまうのは私だけではないと思う。

4年前、対岸の火事だと思っていた深刻な問題が国内で起きたのだ。

東日本大震災と、原子力発電所の事故。

今までは対岸の火事だと思っていた重大な問題がいざ目の前に起きたとき、私は何もできなかった。

あの事故から数年、私は風力発電の技術者を退職し、ステラという名前の特定非営利活動法人を立ち上げた。

構成メンバーはこれまで行なってきた様々な活動で出会った友人たち。設立時の平均年齢は27歳。

現在は正会員と賛助会員合わせておよそ40名ほどの会員によって支えられている。

すべての問題を解決するのは難しいかもしれないができることがあるなら、力になりたい。私たちの世代ではなく、次の、その次の世代に残す社会のために。

次世代へつなぐコンセプト

次に我々の活動について紹介させて頂きたいと思う。

我々の第一目標は宮城県石巻市に風力発電所を建設すること。

少しエンジニアの視点で言わせていただければ、風車が一本立ったところで原発のエネルギーとは桁が4つほど違うのだ。原発のない未来を自然エネルギーでというのはこれから並々ならぬ努力が伴う。ともすれば現代の大量消費社会では増えすぎた自然エネルギーが逆に自然を破壊してしまい本末転倒になってしまう。

これまでとは異なる新しいコンセプトが必要なのではないかと思い。復興に貢献し、環境への負担を抑え、多くの市民の参加により開発が行われ、利益が市民に還元されるようなモデルを検討している。

それは現実的ではないだろうか。次に我々が検討しているビジネスモデルについて述べていきたい。

市民出資という新たな可能性

自然エネルギーの先進国と呼ばれるデンマークやドイツでは大企業や国ではなく、市民が主役となってエネルギーの開発を行ってきた歴史がある。

市民が小口の出資を行い、事業に投資し、自然エネルギーを開発。事業を通して得られる利益を長い時間をかけて市民に還元する仕組みである。多くの市民の理解を得て、かつ出資という具体的なアクションを得られなければ実現できないやり方だ。手間と時間はかかるが発電所は多くの市民に愛され、長く運用され、利益をもたらすのだ。

わが国では北海道グリーンファンドという特定非営利活動法人が先駆者となり、開発を行ってきた。市民出資というモデル自体は昨今例もあり、新たな開発が進んでいるのだ。

デンマークでは八割が市民出資による自然エネルギー開発と言われるが、我が国では千基以上の風車が開発されたにも関わらず市民出資はわずかに十数基。数字にして一パーセント前後である。

被災地に次世代のエネルギーの安全を願って作られる発電所が都心などの外部資本中心であっては、ある程度の税は自治体へ落ちるかもしれないが利益のほとんどが流出してしまい、市民へのメリットは薄い。とかくエネルギーそのものに関してはほぼ全てが電力系統へ送られるのだからそのエネルギーさえどこで消費されるのかわからない。

市民が自然エネルギーを望み、開発し、還元される手法が我が国ではまだまだ少ない。自然エネルギーを多く取り入れた社会実現には『誰かが開発した』ものではなく、自らが何らかの形で関わった発電所があり、エネルギー問題を対岸の火事ではなく自分ごとに感じることが必要であるように思う。そして、このような開発が勢いづくには、ある種のソーシャルインパクトが必要だと思われる。

若者主体で何ができるのか

風力発電機は一基で七億前後の大きな資本を持つ企業が行うのが通例であり、開発もし易いことは述べるまでもないが、こと市民出資となると声を上げることすら容易ではない。

最適なエネルギーを見極め、適正な容量と特性を持った発電機を選択し、しっかりとした事業計画を持って長期に渡る資金調達と、多くの市民へ出資の呼びかけを行って事業を開始するまでもほぼボランティアで行わなければならない。

端的に言うならば事業としての敷居が我が国では高いということだ。ただ、デンマークではこの種の事業を牧場のおじさんが副業でやっているというのもまた事実である。

自然エネルギーの技術が高いこと、恵まれた環境だけではなく、かの国では市民出資という手法が認知され、高い信頼性から市場からの投資を受けられる強力なポートフォリオとなっており、政府や自治体、組合などから事業をバックアップする体制が整っているのも大きな要素だろう。

我が国でたくさんの市民がエネルギー問題に具体的に関わり、開発を進めるという空気感と市民出資という新たな可能性を認知するインパクトのある担い手となるには誰がふさわしいのか。

我々が自然エネルギー開発で最も難しいと言われる風力発電事業にチャレンジしているのにはそういう意味がある。メンバー全員が異なるバックグランドと職業を持ち、素人の寄せ集めと言われても仕方ない中でプロジェクト発案者である私が石巻出身であり、風が強いことは幼少より肌で感じているのだ。その場所にある有益な自然エネルギーは何かということはそこに住む人間がよく知っているはずである。

あの若者たちにすらできるのならば、うちの地域でも同じようなプロジェクトが成功するのではないか。

そう思っていただけたら、共に手を取りたい。その魁に我々はなりたいと思う。

開発に成功できたならば。

国内各地で潜在的に同じことを考えている人の次の一歩に繋がり、新たなプロジェクトが立ち上がる。

自然エネルギーは風だけではない。太陽光、地熱、波力、温泉熱、潮力、バイオマス、小型水力など様々にあり、その形も増え、まさしく日進月歩で技術革新が起きているのだ。

加えて一つ。我々がなぜ石巻で風力発電事業を始めようと思ったのか。

寄稿者プロフィール

東梅祐也
（とうばいゆうや）
石巻市出身。

エンジニアを志し、石巻工業高校電気科、東北学院大学電気情報工学科、同大学大学院にて修士号を取得。現場での仕事に従事するために博士課程を中退し、風力発電専門のエンジニアに。

幼い頃から動物が好きで、将来は環境問題の解決に貢献できる仕事をするのが目標で、そのために何が必要かを知るために大学院時代に社会問題の現場を肌で感じるために環境問題・戦争・貧困をテーマに地球一周の一人旅へ。

帰国後は反原発、植林、ゴミ拾い、反戦デモにチャリティサンタ、自身の旅のトークライブなど様々な活動を行う。

東日本大震災を機にエンジニアを退職してからは宮城に戻り現法人設立。

現在は理事として活動に従事している。

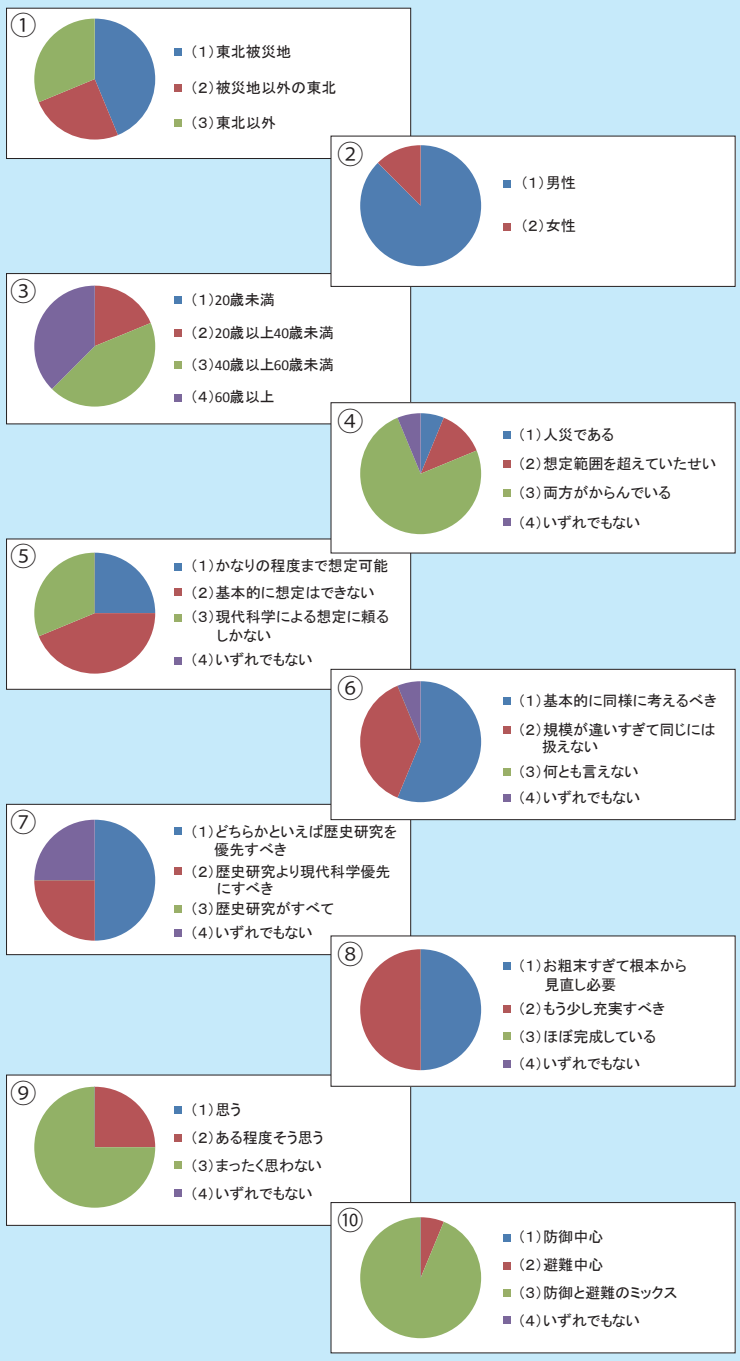
発電所の管理に必要な電気主任技術者の有資格者でもある。

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.

第 40 号　ネットアンケート集計結果

【自然災害対策は防御中心か、避難中心か？】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	（1） 東北被災地	7
	（2） 被災地以外の東北	4
	（3） 東北以外	5
②	性別	
	（1） 男性	14
	（2） 女性	2
③	年齢	
	（1） 20 歳未満	0
	（2） 20 歳以上 40 歳未満	3
	（3） 40 歳以上 60 歳未満	7
	（4） 60 歳以上	6
④	集中豪雨被害は人災か、想定外のせいか？	
	（1） 人災である	1
	（2） 想定範囲を超えていたせい	2
	（3） 両方がからんでいる	12
	（4） いずれでもない	1
⑤	自然災害被害は想定できるものか？	
	（1） かなりの程度まで想定可能	4
	（2） 基本的に想定はできない	7
	（3） 現代科学による想定に頼るしかない	5
	（4） いずれでもない	0
⑥	集中豪雨対策と東北大震災対策について	
	（1） 基本的に同様に考えるべき	9
	（2） 規模が違いすぎて同じには扱えない	6
	（3） 何とも言えない	0
	（4） いずれでもない	1
⑦	自然災害の歴史研究について	
	（1） どちらかといえば歴史研究を優先すべき	8
	（2） 歴史研究より現代科学優先にすべき	4
	（3） 歴史研究がすべて	0
	（4） いずれでもない	4
⑧	自然災害への避難対策について	
	（1） お粗末すぎて根本から見直し必要	8
	（2） もう少し充実すべき	8
	（3） ほぼ完成している	0
	（4） いずれでもない	0
⑨	科学で自然は克服できるか？	
	（1） 思う	0
	（2） ある程度そう思う	4
	（3） まったく思わない	12
	（4） いずれでもない	0
⑩	自然災害対策は防御か、避難か？	
	（1） 防御中心	0
	（2） 避難中心	1
	（3） 防御と避難のミックス	15
	（4） いずれでもない	0



今回は【自然災害対策は防御中心か、避難中心か？】。

大きな自然災害が発生するたびに、やれ防御体制が不備だとか、自然災害は想定外だとか、かまびすしい。以前から、この問題について、聞いてみたいと考えていた。今後の復興対策を見直すのか、いまのまま進行するのか、大事なポイントに差しかかっている。回答者数は十六名。

「集中豪雨被害は人災か、想定外のせいか？」は「両方」が75％で圧倒的。「自然災害被害は想定できるものか？」は「想定はできない」が約44％、「現代科学による想定に頼るしかない」が約31％、「かなりの程度まで想定可能」が25％。

「集中豪雨対策と東北大震災対策について」は「同様に考えるべき」が約56％、「規模が違いすぎて同じには扱えない」が約38％。「自然災害の歴史研究について」は「どちらかといえば歴史研究を優先すべき」が50％、「歴史研究より現代科学優先にすべき」が25％。「自然災害への避難対策について」は「お粗末すぎて根本から見直し必要」と「もう少し充実すべき」が同数で50％。「科学で自然は克服できるか？」は「まったく思わない」が75％で圧倒的、「ある程度そう思う」が25％。「自然災害対策は防御か、避難か？」は「防御と避難のミックス」が約94％で圧倒的という結果だった。

編集後記

ワールドカップラグビーで、これまで惨憺たる成績であったジャパンチームが、強豪の南アフリカに勝利するという快挙で、日本中、いや世界中で大騒ぎになり、その余勢をかって日本にラグビーブームが訪れそうな気配である。

筆者は、以前からラグビーが好きで、深夜枠に追いやられたワールドカップの熱戦を寝不足になりながら見ていた方なので、そうしたブームは大歓迎である。

かなり前になるが、新日鉄釜石という不動の日本チャンピョンがいた。日本選手権で七連覇を果たすという偉業をやってのけたチームで、その後、釜石シーウエイブズと名前を変えて現在に至っている。

近頃ではかつての黄金時代を知る人も少なくなってきたようだ。

東北大震災では、選手たちによる地元被災地への積極的な復興ボランティア活動が知られていたが、それをいまでも継続しているようだ。

二〇一九年のワールドカップラグビー日本開催では、釜石でも試合が開催される。

釜石シーウエイブズの選手たちが、地元の会場で活躍する姿を、復興活動を共に行ってきた被災者の方々はぜひとも見たいと願っていることだろう。ぜひ応援したい。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
  ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
  ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
  ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由（プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思います）
  ④ 〆切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先／企画提出先
（郵送）　〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1
ホームタウン宮前2-2
電子タブロイド新聞【東北復興】 宛
（メール）　yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思います。（氏名公表か非公表かはご相談）

- たくさんのご提案をお待ちしています

【東北復興】掲載の記事・写真・図表などの無断転載を禁止します。Copyright YUMUYU INC. All rights reserved.